

2018 年度 授業評価アンケート報告書

関西学院大学経営戦略研究科

本報告書の概要

本報告書は、2018 年度に関西学院大学経営戦略研究科においてに開講された授業についての学生及び教員による授業評価アンケート結果をまとめたものであり、「2018 年度授業評価アンケート結果概要・分析」、「授業評価アンケート実施科目一覧」、「授業評価アンケートフォーム」、「授業別評定平均値一覧」、「集計結果表（全体・履修人数・専攻・コース・科目別）」、「教員の担当科目自己評価表」及び「グループ・インタビュー調査結果」から構成されている。

授業評価アンケートを実施した授業科目は、2018 年度に開講された 351 講義である。2018 年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は 3,619 人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は 3,240 人であり、アンケート調査の回答率は 89.58%であった。

学生による評価アンケートは、設問 1 から設問 9 が「教員の授業内容と方法」について、設問 10 と設問 11 が「学生自身の取り組み」について、設問 12 から設問 14 が「授業の満足度」についての質問となっており、いずれの設問も 5 段階評価で回答することとなっている。

2018 年度の学生によるアンケート結果からは、全履修者の授業に対する満足度に関する評価は概ね高い水準を維持していることが分かる。設問 13 の「この授業は全般的に満足のものでしたか。」のスコアは、通年で 4.55、春学期が 4.51、秋学期が 4.60 である。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問 3 の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、通年で 4.77 である。つまり、担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。

他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問 10 の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」及び設問 11 の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問 1～9、設問 12～14）に比較して低い状況が続いており、授業外での課題設定に工夫が必要であろう。

また、本研究科では各授業の終了時に教員に自身の担当科目についての自己評価アンケートを実施している。各専攻のコア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の 4 つの科目群の分析概要は次のとおりである。

まず、企業経営戦略コースでは、教員は概ね理論と実践のバランスに力を入れており、グループディスカッション等の方法を取り入れることと実務家のゲストスピーカーを招聘するなどの特徴がある。また、研究者教員と実務家教員をバランスよく配置している。総じて、実務での応用への橋渡しなどを意識している記述が多かった。

コア科目群では、基本的な理論・フレームワークを習得することに力点が置かれ、また、ビジネスに直結して応用させることが意識されていた。ベーシック科目群については「基礎的な知識を体系だてる」など基礎的な概念や理論の理解を挙げる教員が多かった。アドバンスト科目群では、発展的な科目という性質から、高い分析力を要求する科目も見られた。課題研究科目群では、課題研究基礎では「課題研究論文の進め方を理解させること」が多く、課題研究では研究内容の充実とスムーズな進め方が挙げられていた。

「力を入れた点」と「実施して良かった点」は、本年度は同じ内容のものが多いが、2019年度からは、選択回答「この科目を担当するに当たって力を入れたことはなんですか」と記述回答「この科目において、実施してよかった点はなんですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください」と回答方法を分けたため、その相違について分析が進むものと考えている。

国際経営コースでは、学生の評価と教員の取り組みと学生の評価の間に相関関係が見られなかった点が問題である。原因は明確ではないが、質問項目の変更や教員の取り組みに関して個別に検討する必要があると思われる。

会計専門職専攻では、コア科目、ベーシック科目では、知識の習得・定着が重視されており、アドバンスト科目では双方向の授業への取組を進めて自発的な学習を促す試みを進めている。例年行っている細かな達成度合いについての数量的な把握に関しては、詳述は本文を参照されたい。その中で、特に学生の予備知識の不足が指摘されており、そのための対応策が必要であることが指摘されている。

1. 授業評価の目的

学校教育法により、第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による分野別認証評価を受けることが義務づけられている。第三者評価は、自己点検・評価とともに、継続的な教育研究の質の向上を目的としたものである。経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策の一環として、「授業内容及び授業方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施する。授業評価の目的は、アンケートから得た学生の実態や現状、授業に対する認識・反応などの分析結果に基づき教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、研究科の教育の質的向上を図るとともに、専門職大学院教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身による授業についての自己評価を学生による評価と同時に実施していることである。各教員は学生の授業評価結果を見ない段階

で授業を振り返ってアンケートの記入を行う。結果を、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と報告書の執筆については、研究科教授会のもとに設置された「内部質保証委員会」（2018年度までは「自己評価委員会」）の委員が担当した。

詳細な調査の実施方法等については、以下の「2. 調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および履修者からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表する。

2. 調査実施方法及び期間等

本報告書が扱う授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

A. 実施対象授業科目について

原則として2018年度に開講されたすべての講義（複数クラス開講分を含む。ただし、調査回答が全て白紙または未提出の科目（2018年度は2講義 各履修者数1名・1名が該当）は含めない）が対象であり、その数は351講義（春学期172講義、秋学期179講義）である。内訳は、経営戦略専攻が216講義（企業経営戦略コース144講義、および国際経営コース72講義）、会計専門職専攻が135講義であった。

B. 回答者、回答率等について

2018年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,619人（延べ人数、以下同じ）で、そのうち、春学期が1,855人、秋学期が1,764人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は3,240人（春学期1,677人、秋学期1,563人）であり、アンケート調査の回答率は89.58%（春学期90.50%、秋学期88.61%）であった。各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は2,637人（企業経営戦略コース2,146人および国際経営コース491人）で、そのうち、春学期は1,329人（企業経営戦略コース1,077人および国際経営コース252人）、秋学期は1,308人（企業経営戦略コース1,069人および国際経営コース239人）であった。アンケート調査の回答者数については、2,364人（企業経営戦略コース1,908人および国際経営コース456人）であった。そのうち、春学期は1,195人（企業経営戦略コース959人および国際経営コース236人）、秋学期は1,169人（企業経営戦略コース949人および国際経営コース220人）であった。回答率は89.6%（企業経営戦略コース88.9%および国際経営コース

92.9%)である。そのうち、春学期は89.9%（企業経営戦略コース89.0%および国際経営コース93.7%）、秋学期は89.4%（企業経営戦略コース88.8%および国際経営コース92.1%）であった。

また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は980人（春学期524人、秋学期456人）で、アンケート調査の回答者数は876人（春学期482人、秋学期394人）あり、その回答率は89.4%（春学期92.0%、秋学期86.4%）であった。

C. 実施期間について

授業評価は、従前より、各クォーター・各学期集中講義の最終授業時に実施している。2018年度実施期間は、以下のとおりである。

クォーター科目については、原則として、7週目授業時に実施した。ただし、補講を実施した科目については、翌週の最終授業時に実施した。また、各集中講義開講科目については、各期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター： 2018年5月21日（月）～5月27日（日）

第2クォーター： 2018年7月16日（月）～7月22日（日）

夏季集中講義： 2018年7月30日（月）～8月12日（日）

第3クォーター： 2018年11月2日（金）～11月8日（木）

第4クォーター： 2019年1月12日（土）～1月21日（月）

冬季集中講義： 2019年1月26日（土）～2月28日（木）

D. アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次のとおり実施した。

- (1) 授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- (2) 最終授業開始前に、各担当者は担当授業科目の授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室で受け取る。
- (3) 最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- (4) 授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配付し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配付及び回答の指示をした後、学生の自由な回答・記入を促すため、授業担当者は教室から退室する。
- (5) 学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。

- (6) 授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封に入れて事務室に返却する。なお、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは見てはならない。
- (7) 「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- (8) 「教員の担当科目自己評価表」は、自由記述形式の3つの設問からなっている。
- ① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
 - ② 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2) 改善・工夫をした方がよい点」
 - ③ 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

E. 集計

2018年度の授業評価アンケートについては、各授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」では、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値及び専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値については、グラフによって視覚的にも明示する。

学生が記入する授業評価アンケートには、自由記述の設問が3問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関して気づいたことがあれば書いてください」）。この自由記述の回答内容については公表対象とはしないが、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者には配付している。

3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価アンケート

(1) 概観

以下で、2018年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、2009年度～2017年度の結果と比較して分析する。

表1から表4は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は2009年度から2018年度の数字を平均したものである）。2018年度の全科目群（表1）の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足いくものでしたか。」のスコアは、通年で4.56、春学期が4.49、秋学期が4.63であり、これはこれまでの最高スコアでもある。設問の中で最も高いスコアは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2018年度も通年で4.79と高い水準を保っている。他方、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」及び設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、2017年度まで比較的低いスコアであったが、2018年度は大幅に改善されており（設問10：4.20（平均4.05）、設問11：4.23（平均3.93））、授業アンケートの結果を受けての各教員の改善努力が功を奏していると言える。

表 1 : 全科目群 (回答の平均値)

表 1 - 1 春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
2013	4.55	4.57	4.71	4.36	4.45	4.13	4.19	4.14	4.50	3.99	3.83	4.08	4.31	4.39
2014	4.57	4.57	4.74	4.42	4.48	4.23	4.32	4.22	4.57	4.06	3.87	4.13	4.40	4.46
2015	4.59	4.62	4.74	4.46	4.54	4.29	4.35	4.32	4.60	4.02	3.86	4.16	4.44	4.51
2016	4.55	4.63	4.73	4.41	4.47	4.23	4.33	4.22	4.53	4.03	3.82	4.16	4.39	4.46
2017	4.60	4.61	4.76	4.42	4.48	4.19	4.31	4.18	4.57	4.02	3.88	4.12	4.37	4.46
2018	4.65	4.69	4.78	4.50	4.55	4.35	4.36	4.41	4.65	4.10	4.17	4.26	4.49	4.56
平均	4.55	4.59	4.73	4.40	4.47	4.20	4.26	4.22	4.55	4.02	3.88	4.12	4.37	4.39

表 1 - 2 秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
2013	4.46	4.49	4.61	4.31	4.37	4.12	4.21	4.16	4.49	4.00	3.94	4.04	4.26	4.32
2014	4.61	4.63	4.74	4.49	4.54	4.33	4.37	4.29	4.60	4.13	4.00	4.20	4.43	4.52
2015	4.62	4.66	4.75	4.49	4.57	4.37	4.38	4.36	4.64	4.08	3.98	4.25	4.46	4.50
2016	4.63	4.67	4.80	4.51	4.46	4.28	4.36	4.28	4.59	4.02	3.88	4.18	4.49	4.54
2017	4.66	4.72	4.82	4.53	4.53	4.37	4.36	4.33	4.64	4.09	3.97	4.25	4.51	4.57
2018	4.74	4.74	4.81	4.63	4.70	4.54	4.51	4.50	4.74	4.29	4.30	4.41	4.63	4.67
平均	4.60	4.63	4.73	4.47	4.50	4.29	4.33	4.31	4.59	4.08	3.99	4.20	4.42	4.44

表 1 - 3 通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
2013	4.51	4.53	4.66	4.34	4.41	4.13	4.19	4.15	4.50	4.00	3.88	4.06	4.29	4.36
2014	4.59	4.60	4.74	4.45	4.51	4.28	4.34	4.26	4.58	4.09	3.92	4.16	4.41	4.49
2015	4.60	4.63	4.74	4.48	4.55	4.33	4.37	4.34	4.62	4.05	3.91	4.20	4.45	4.50
2016	4.59	4.65	4.77	4.46	4.46	4.26	4.34	4.25	4.56	4.02	3.85	4.17	4.44	4.50
2017	4.63	4.66	4.79	4.47	4.50	4.28	4.33	4.25	4.60	4.05	3.92	4.18	4.43	4.51
2018	4.69	4.72	4.79	4.57	4.62	4.45	4.44	4.46	4.69	4.20	4.23	4.34	4.56	4.62
平均	4.58	4.61	4.73	4.43	4.48	4.25	4.29	4.26	4.57	4.05	3.93	4.16	4.39	4.41

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンスト科目群(表4)のデータを分析する。コア科目については、春学期は14の設問中12問で昨年の水準を上回っており、秋学期、通年においては全設問で昨年度の水準を上回っており、評価の改善が認められる。ベーシック科目については、春学期、秋学期、通年ともに全設問で昨年度の水準を上回っており、評価の改善が認められる。最後にアドバンス科目は、秋学期については14の設問中3問で昨年度の水準を下回っているものの、過去平均よりは高く、また、それ以外の設問については昨年度の水準を上回っており、品質の改善が進んでいることがわかる。

表2：コア科目群(回答の平均値)

表2-1 春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
2013	4.50	4.45	4.71	4.29	4.32	3.87	3.97	3.98	4.37	3.90	3.62	3.93	4.16	4.27
2014	4.49	4.52	4.80	4.44	4.32	4.11	4.20	4.10	4.50	4.04	3.66	4.00	4.30	4.40
2015	4.48	4.46	4.75	4.28	4.39	4.03	4.20	4.15	4.43	3.76	3.55	3.86	4.25	4.36
2016	4.43	4.57	4.70	4.29	4.27	4.15	4.25	4.07	4.37	3.92	3.63	4.01	4.23	4.33
2017	4.52	4.51	4.79	4.37	4.39	4.09	4.28	4.11	4.44	3.86	3.56	3.92	4.27	4.38
2018	4.52	4.60	4.81	4.42	4.41	4.16	4.17	4.21	4.58	4.08	4.00	4.05	4.32	4.42
平均	4.42	4.45	4.69	4.26	4.26	3.96	4.09	3.99	4.39	3.89	3.64	3.86	4.13	4.19

表2-2 秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
2013	4.27	4.24	4.53	4.15	4.17	3.99	4.22	4.19	4.28	3.89	3.72	3.96	4.10	4.23
2014	4.50	4.55	4.75	4.40	4.29	4.14	4.24	4.15	4.49	4.03	3.72	3.97	4.21	4.33
2015	4.50	4.53	4.76	4.31	4.39	4.17	4.33	4.30	4.51	3.94	3.64	4.06	4.28	4.33
2016	4.39	4.47	4.73	4.32	4.01	4.02	4.23	4.22	4.24	3.74	3.58	3.90	4.25	4.27
2017	4.48	4.56	4.76	4.42	4.23	4.11	4.19	4.25	4.40	3.88	3.60	3.98	4.29	4.36
2018	4.68	4.73	4.84	4.52	4.48	4.47	4.44	4.51	4.63	4.01	4.12	4.20	4.56	4.57
平均	4.47	4.48	4.68	4.32	4.18	4.04	4.20	4.20	4.41	3.93	3.75	3.96	4.20	4.22

表 3 - 3 通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00
2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
2013	4.43	4.39	4.66	4.25	4.27	3.91	4.05	4.05	4.35	3.89	3.65	3.94	4.14	4.26
2014	4.50	4.53	4.78	4.42	4.31	4.12	4.22	4.12	4.49	4.04	3.69	3.99	4.26	4.37
2015	4.49	4.49	4.76	4.29	4.39	4.09	4.25	4.21	4.46	3.83	3.59	3.94	4.26	4.35
2016	4.41	4.51	4.71	4.31	4.14	4.08	4.24	4.15	4.30	3.83	3.60	3.95	4.24	4.30
2017	4.50	4.54	4.77	4.40	4.30	4.10	4.23	4.18	4.42	3.87	3.58	3.95	4.28	4.37
2018	4.58	4.65	4.82	4.46	4.44	4.28	4.28	4.33	4.60	4.05	4.05	4.11	4.42	4.48
平均	4.44	4.46	4.69	4.29	4.23	4.00	4.13	4.08	4.40	3.91	3.69	3.90	4.16	4.20

表 3 : ベーシック科目群 (回答の平均値)

表 3 - 1 春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
2013	4.59	4.65	4.75	4.37	4.55	4.18	4.15	4.16	4.52	3.98	3.64	4.05	4.30	4.39
2014	4.55	4.51	4.68	4.31	4.47	4.10	4.27	4.12	4.49	3.99	3.73	4.00	4.30	4.37
2015	4.70	4.75	4.79	4.61	4.66	4.32	4.43	4.37	4.65	4.13	3.93	4.27	4.51	4.61
2016	4.53	4.62	4.71	4.40	4.54	4.18	4.34	4.22	4.54	3.98	3.76	4.12	4.40	4.47
2017	4.55	4.57	4.78	4.38	4.48	4.09	4.16	4.10	4.54	4.04	3.82	4.00	4.22	4.32
2018	4.63	4.71	4.82	4.50	4.57	4.29	4.24	4.31	4.61	4.14	4.15	4.20	4.44	4.54
平均	4.56	4.61	4.73	4.40	4.52	4.17	4.21	4.20	4.53	4.03	3.81	4.10	4.35	4.38

表 3 - 2 秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23
2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
2013	4.39	4.38	4.57	4.18	4.17	3.92	4.03	3.92	4.37	3.85	3.73	3.83	4.10	4.18
2014	4.57	4.57	4.68	4.41	4.52	4.29	4.28	4.26	4.54	4.05	3.90	4.16	4.36	4.43
2015	4.69	4.64	4.75	4.53	4.53	4.31	4.29	4.37	4.61	4.02	3.80	4.16	4.45	4.47
2016	4.64	4.73	4.81	4.55	4.58	4.37	4.39	4.38	4.66	4.00	3.75	4.23	4.53	4.55
2017	4.65	4.73	4.78	4.52	4.49	4.29	4.35	4.26	4.63	4.04	3.92	4.16	4.39	4.47
2018	4.73	4.75	4.85	4.66	4.76	4.50	4.56	4.50	4.75	4.33	4.30	4.42	4.62	4.68
平均	4.60	4.63	4.74	4.46	4.49	4.25	4.29	4.27	4.56	4.03	3.86	4.17	4.39	4.41

表 3 - 3 通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44
2013	4.50	4.52	4.66	4.28	4.37	4.05	4.09	4.05	4.45	3.92	3.69	3.94	4.21	4.29
2014	4.56	4.54	4.68	4.36	4.50	4.20	4.27	4.20	4.52	4.02	3.82	4.08	4.33	4.40
2015	4.69	4.70	4.78	4.57	4.60	4.31	4.37	4.37	4.63	4.08	3.87	4.22	4.48	4.54
2016	4.59	4.68	4.76	4.48	4.56	4.28	4.36	4.30	4.60	3.99	3.75	4.17	4.46	4.51
2017	4.60	4.65	4.78	4.45	4.48	4.19	4.26	4.18	4.58	4.04	3.87	4.08	4.30	4.40
2018	4.68	4.73	4.83	4.58	4.67	4.40	4.41	4.41	4.68	4.25	4.23	4.31	4.54	4.61
平均	4.58	4.62	4.74	4.43	4.51	4.21	4.24	4.23	4.54	4.03	3.83	4.13	4.37	4.39

表 4 : アドバンスト科目群 (回答の平均値)

表 4 - 1 春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
2013	4.55	4.57	4.68	4.41	4.46	4.27	4.35	4.24	4.57	4.07	4.10	4.21	4.43	4.48
2014	4.60	4.62	4.74	4.46	4.56	4.35	4.40	4.33	4.65	4.11	4.02	4.25	4.49	4.54
2015	4.58	4.63	4.71	4.48	4.55	4.41	4.39	4.38	4.66	4.09	3.97	4.26	4.51	4.54
2016	4.60	4.66	4.76	4.45	4.50	4.28	4.35	4.28	4.59	4.10	3.92	4.23	4.44	4.51
2017	4.64	4.65	4.74	4.45	4.50	4.26	4.37	4.23	4.62	4.06	4.00	4.22	4.45	4.54
2018	4.71	4.72	4.76	4.54	4.59	4.46	4.49	4.53	4.69	4.09	4.25	4.37	4.57	4.63
平均	4.62	4.65	4.74	4.47	4.55	4.35	4.39	4.36	4.64	4.09	4.06	4.27	4.50	4.50

表 4 - 2 秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41
2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
2013	4.56	4.62	4.66	4.43	4.55	4.28	4.31	4.30	4.62	4.12	4.12	4.19	4.40	4.43
2014	4.68	4.71	4.79	4.59	4.65	4.43	4.49	4.37	4.69	4.22	4.18	4.31	4.58	4.66
2015	4.63	4.71	4.74	4.54	4.65	4.47	4.44	4.37	4.69	4.16	4.17	4.35	4.53	4.57
2016	4.71	4.73	4.81	4.56	4.57	4.34	4.39	4.26	4.69	4.13	4.05	4.26	4.57	4.64
2017	4.74	4.78	4.87	4.58	4.67	4.53	4.44	4.40	4.74	4.20	4.15	4.41	4.66	4.70
2018	4.76	4.75	4.78	4.64	4.73	4.58	4.51	4.50	4.76	4.34	4.34	4.46	4.65	4.70
平均	4.65	4.69	4.75	4.53	4.62	4.41	4.41	4.38	4.68	4.16	4.15	4.30	4.53	4.54

表4-3 通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52
2013	4.56	4.60	4.67	4.42	4.51	4.28	4.33	4.27	4.60	4.10	4.11	4.20	4.41	4.45
2014	4.64	4.66	4.76	4.52	4.60	4.38	4.43	4.35	4.67	4.16	4.09	4.27	4.53	4.59
2015	4.61	4.67	4.72	4.51	4.60	4.44	4.41	4.38	4.68	4.13	4.07	4.31	4.52	4.55
2016	4.66	4.69	4.79	4.50	4.54	4.31	4.37	4.27	4.64	4.11	3.99	4.24	4.50	4.57
2017	4.68	4.71	4.80	4.51	4.57	4.37	4.40	4.30	4.67	4.12	4.06	4.30	4.54	4.60
2018	4.73	4.73	4.77	4.59	4.66	4.52	4.50	4.51	4.72	4.22	4.29	4.42	4.61	4.66
平均	4.63	4.66	4.75	4.50	4.59	4.38	4.40	4.37	4.66	4.13	4.10	4.28	4.51	4.51

(2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

表5：科目ごとの回答の平均値

表5-1 春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	1	37	4.24	4.58	4.62
経営学	1	30	3.96	4.52	4.50
経営学	2	12	4.44	4.89	4.80
会計学	1	44	3.94	4.19	4.28
経済学	1	13	3.92	4.15	4.31
統計学	1	38	3.64	3.61	3.94
統計学	2	23	4.14	4.20	4.40
英語コミュニケーション	1	17	4.14	4.64	4.64
英語コミュニケーション	2	22	4.48	4.77	4.73

表5-2 秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	2	42	3.93	4.48	4.38
経営学	3	23	4.37	4.74	4.74
会計学	2	30	4.42	4.69	4.73
経済学	2	11	4.00	4.20	4.20
統計学	3	23	4.27	4.50	4.68
英語コミュニケーション	3	17	4.27	4.53	4.53
英語コミュニケーション	4	22	4.10	4.62	4.57

表5-3 春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
経営戦略	1	50	4.18	4.26	4.38
人的資源管理	1	22	4.17	4.63	4.74
マーケティング・マネジメント	1	36	4.32	4.59	4.53
コーポレート・ファイナンス基礎	1	22	4.05	4.48	4.57
テクノロジー・マネジメント	1	15	4.62	4.92	4.85
公共経営論	1	14	4.14	4.29	4.43
行動科学		16	3.88	4.00	4.69
統計分析論		14	4.46	4.62	4.77
ゲーム理論	1	29	4.12	4.40	4.36
グローバル・エコノミー		16	3.94	4.19	4.31
上級英語コミュニケーション	1	5	4.80	5.00	5.00

表5-4 秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
経営戦略	2	22	4.21	4.26	4.32
人的資源管理	2	16	4.13	4.60	4.60
マーケティング・マネジメント	2	21	4.30	4.45	4.60
コーポレート・ファイナンス基礎	2	15	4.13	4.40	4.57
財務諸表分析		27	4.44	4.60	4.68
テクノロジー・マネジメント2	2	23	4.60	4.85	4.90
情報システム		16	4.73	4.80	4.80
ベンチャービジネス		23	4.30	4.57	4.52
公共経営論	2	37	4.35	4.55	4.61
ゲーム理論	2	16	4.64	4.57	4.64
会社法		9	4.50	4.83	5.00
上級英語コミュニケーション	2	6	5.00	5.00	5.00
イノベティブ・シンキング		40	4.51	4.84	4.86

表5-5 春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
管理会計		21	4.44	4.72	4.78
企業経営史		14	4.31	4.69	4.54
組織管理		26	4.12	4.48	4.48
組織管理事例研究		33	4.21	4.46	4.50
中小企業経営		43	4.28	4.55	4.59
地域振興		33	4.52	4.82	4.79
Business Negotiation (企業)		4	4.50	4.75	5.00
ブランド・マネジメント		29	4.32	4.52	4.60
マーケティング・コミュニケーション		24	4.18	4.71	4.65
マーケティング戦略		20	4.44	4.72	4.67
流通システム		10	4.33	4.56	4.78
消費者行動		10	4.50	4.80	4.90
リアルオプション		6	4.80	5.00	5.00
Special Topics in Finance (企業)		2	4.50	4.50	4.50
行動経済学		16	4.14	4.14	4.36
生産システム		18	4.00	4.25	4.31
製品開発事例研究		11	3.10	3.40	3.50
標準化経営戦略		30	3.90	4.00	4.14
知的財産戦略		2	5.00	5.00	5.00
Product Innovation (企業)		4	4.25	4.75	4.50
システム・シンキング		35	4.72	4.84	4.84
ベンチャービジネス事例研究		24	4.05	4.29	4.38
企業倫理事例研究		23	4.59	4.77	4.77
ベンチャーファイナンス		15	4.82	4.91	4.91
企業経営戦略特論D		5	3.80	3.20	3.40
企業経営戦略特論E		26	4.58	4.85	4.92
企業経営戦略特論I		19	4.31	4.27	4.25
課題研究基礎	1	9	4.50	5.00	5.00
課題研究基礎	2	10	4.60	4.80	4.80
課題研究基礎	7	11	4.73	4.55	4.82
課題研究	1	4	5.00	5.00	5.00
課題研究	7	2	4.50	4.00	4.00
課題研究	1 3	2	4.50	5.00	5.00
課題研究	1 5	6	5.00	5.00	5.00
課題研究	2 1	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	2 3	1	5.00	5.00	5.00
自治体ガバナンス		7	3.67	4.17	4.50
自治体財務管理 (企業)	1	1	5.00	5.00	5.00
病院経営事例研究		11	4.56	4.70	4.80
病院組織管理		5	4.40	4.60	4.80
医療経済学		5	4.80	4.80	5.00
病院アドミニストレーション		12	4.90	5.00	5.00
大学経営	1	2	4.50	5.00	5.00
大学財務管理		3	4.33	3.67	4.33
大学経営事例研究		6	4.17	4.67	5.00
自治体財務管理 (AS)	1	1	5.00	4.00	5.00

表5-6 秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
組織行動		26	4.35	4.80	4.70
コーポレート・ファイナンス応用		9	4.67	4.56	4.89
企業家論		9	4.56	4.78	4.89
人材マネジメント		18	4.12	4.82	4.71
NPOマネジメント		21	4.30	4.55	4.65
事業システム戦略論		13	4.58	4.67	4.67
経営戦略事例研究		4	4.50	4.50	4.75
New Global Venture Creation (企業)		6	5.00	5.00	5.00
サービス・マーケティング		8	4.57	4.86	4.86
チャネル・マネジメント		5	5.00	5.00	5.00
マーケティング・コミュニケーション	2	11	4.44	5.00	4.78
営業戦略		6	4.60	4.80	4.80
ロジスティクス		2	5.00	5.00	5.00
国際マーケティング		2	4.00	4.00	4.00
マーケティング・リサーチ		15	4.92	4.92	4.92
ソーシャル・マネジメント		21	4.18	4.47	4.65
証券投資		4	4.75	4.75	4.75
行動ファイナンス		10	4.56	4.67	4.44
リスクマネジメント		6	4.83	4.83	4.83
イノベーション経営		18	4.79	4.86	4.86
製品開発		17	4.50	4.69	4.81
データマイニング		15	4.62	4.54	4.62
システム・デザイン演習		34	4.74	4.97	4.94
アントレプレナーシップ		23	4.39	4.56	4.61
新規事業計画		17	4.31	4.38	4.31
中小企業経営革新		20	4.63	4.81	4.75
知的財産権法		6	4.50	4.67	4.67
研究開発型ベンチャー創成		10	4.56	4.56	4.78
企業経営戦略特論A		9	4.44	4.89	5.00
企業経営戦略特論F		17	4.23	5.00	5.00
企業経営戦略特論H		7	4.50	4.75	5.00
課題研究基礎	4	28	4.00	3.92	4.04
課題研究基礎	8	13	4.62	4.69	4.69
課題研究基礎	9	9	4.88	4.88	4.88
企業経営戦略特論J		20	4.22	4.61	4.67
企業経営戦略特論K		22	4.86	4.91	4.86
課題研究	2	4	5.00	5.00	5.00
課題研究	4	7	4.83	4.50	4.67
課題研究	6	1	4.00	5.00	5.00
課題研究	8	2	5.00	4.50	4.50
課題研究	1 2	5	4.00	3.75	4.25
課題研究	1 4	7	4.83	5.00	5.00
課題研究	1 6	8	5.00	5.00	5.00
課題研究	1 8	7	5.00	5.00	5.00
課題研究	2 0	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	2 2	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	2 4	3	4.33	4.33	4.67
官民パートナーシップ論		3	4.50	5.00	5.00
公共経営事例研究	2	3	5.00	5.00	5.00
地域経営事例研究		13	4.56	4.78	4.67
自治体財務管理	2	1	3.00	4.00	4.00
病院経営		17	4.00	4.00	4.24
病院会計		18	4.33	4.61	4.61
地域医療マネジメント		9	4.11	4.56	4.67
医療サービス・マネジメント		7	3.83	4.17	4.17
大学経営	2	3	4.00	4.33	4.33
大学組織管理		2	4.50	4.50	5.00
大学運営		26	4.08	4.54	4.75

B. 教員による担当科目自己評価

教員は、各授業終了後に「教員担当科目自己評価表」に次の3点の自己評価を記載することになっており、それぞれの評価を以下に示す。

(1) この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。

比較的多くの授業で挙げられていた特徴として、基本的な理論の理解、理論とケースのバランス、学生による報告とディスカッションの促進、グループワークの実施、ゲストスピーカーの招聘といった点があげられる。また課題研究においては、個人のテーマに即した指導に注力している教員が多く、一方通行となりがちな一般的な MBA 教育の欠点を補う目的である課題研究の意義を確認できる。

(2) この科目において実施してよかった点と改善・工夫をしたほうが良い点は何ですか。

多くの授業で共通して挙げられていた特徴としては、(1)と重複する点もあるが、学生間のディスカッションの促進、ゲストスピーカーの招聘による実務の理解促進、グループ学習による学生間のコミュニケーションの促進、毎回のレポート提出、小テストの実施、優れたレポートの紹介、演習時間を長くとり、実態に即した内容にする、といった点があげられる。また教員独自の工夫も多く、特色のある授業を実施できていることが伺える。

また、改善点としては、学生の発言回数に濃淡が生じること、学生に予習復習を徹底できていないといった点が挙げられる。

(3) この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。

概して「概ね達成された」との意見が多かったが、学生のレベルの違いから、理解が不足している学生、もしくは物足りないと感じている学生への対応を課題とする意見、また授業進行のペースを工夫したいとのいった意見が多く見られた。

経営戦略専攻・国際経営コース

A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける 2018 年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過去 2 年度の結果と比較して分析する。ただし、質問項目 14「授業内容の就職後の実用性 (Course content were highly relevant and useful for your future career)」は国際経営コースで独自に追加している質問項目である。

表 1 2018 年度授業評価結果 (2016 年度、2017 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2016	4.51	4.56	4.64	4.36	4.53	4.46	4.35	4.42	4.54	4.16	4.04	4.21	4.39	4.41
	2017	4.57	4.66	4.70	4.46	4.59	4.57	4.47	4.36	4.59	4.17	4.11	4.35	4.48	4.42
	2018	4.68	4.77	4.80	4.49	4.71	4.58	4.44	4.55	4.65	4.31	4.39	4.49	4.57	4.68
秋学期	2016	4.50	4.55	4.61	4.26	4.44	4.35	4.43	4.30	4.38	4.03	3.90	4.14	4.30	4.29
	2017	4.66	4.67	4.76	4.57	4.58	4.50	4.45	4.45	4.57	4.28	4.15	4.44	4.49	4.51
	2018	4.55	4.66	4.67	4.35	4.43	4.37	4.26	4.30	4.47	4.31	4.23	4.31	4.44	4.44
通年	2016	4.51	4.56	4.63	4.31	4.49	4.41	4.39	4.36	4.47	4.10	3.98	4.18	4.35	4.36
	2017	4.62	4.67	4.72	4.51	4.59	4.54	4.46	4.40	4.58	4.22	4.13	4.39	4.49	4.46
	2018	4.62	4.72	4.73	4.42	4.58	4.48	4.35	4.43	4.56	4.31	4.31	4.40	4.51	4.56

まず通年での学生による授業全体評価のスコア自体は概ね高い評価で推移している。合計 14 の質問項目うち半分の 7 項目で 4.5 点を上回り、その他の項目でも 4.0 点を下回るものはなかった。質問項目の平均が 4.5 点を上回るということは、回答者の多くが各質問に対して「Strongly Agree」、あるいは「Agree」と回答したということである。質問項目の全てが 4.0 点を超え、さらに、多くの質問項目の平均点が 4.5 点を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去 2 年との比較をしてみると、2018 年度は、2017 年度に見られた改善傾向を維持した。2017 年度は全ての項目で 2016 年度を上回る大きな改善が達成されていたが、2018 年度は、さらに 8 つの項目で 2017 年度を上回った。国際経営コースのセールス・ポイントの一つは、学生数が少人数のクラスのため丁寧で学生と教授間の応答型の教育手法が維持され教える内容が学生に十分に伝わるクラスが多いことであり、これが学生満足度の向上の源泉である。2016 年度に急激に増加した学生数が、2017 年度、2018 年度と徐々に減少している過程での現象なので、かならずしも手放しで喜べる状態ではないのだが、従来の強みが発揮される形に回帰しつつある点は評価すべきであろう。

評価が高い質問項目のスコアを詳細に分析すると、質問項目 3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」は 4.73 点、質問項目 2「The instructor was well prepared for the classes」が 4.72 点、質問項目 1「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」が 4.62 点であった。概ね昨年

と同様の評価結果である。トップ3から伺えるのは、教員に対する学生の高い評価である。教員全体が継続的な教育の向上活動（FD）を行ったこと、シラバス記載の充実を組織的に推進した結果が反映されているものとする。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目14「Course content were highly relevant and useful for your future career」が4.56点、質問項目9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」が4.56点、質問項目5「The instructor encouraged students comment and discussion.」が4.58点、質問項目13「Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students.」が4.51点などであった。

一方、比較的低い評価であったのは、質問項目11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が4.31点、質問項目10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が4.31点、質問項目7「The amount of work assigned was reasonable.」4.35点、などであった。いずれも学生側の主体的な学習への取り組み姿勢を問う質問、および、学習の成果や科目設計への評価を問うものである。質問項目10～11では、若干ながらも改善が見られた。一方で、質問7への評価は低迷しており、大きな課題である。宿題の量が多すぎるのか少なすぎるのかをまず把握する必要があり、設問の再考が求められる。

2016年度の授業評価結果は、主に学生数の増加に起因するものと考えられ、2017年度には学生数の増加傾向が一服した反動で、やや授業評価が改善した可能性を指摘したが、2018年度についても同様の推論が成り立つであろう。学生数が増加すれば、一人一人の履修者への目配りは相対的に低下するし、学生側の緊張感も薄れる、ということであろうか。入学者の増加が重要な課題であり続ける一方で、履修者の増加と授業評価結果とのバランスを両立するチャレンジも重要な課題になっているものと考えられる。

表2 2018年度授業評価コア科目群結果（2016年、2017年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2016	4.52	4.63	4.71	4.40	4.61	4.57	4.41	4.43	4.52	3.99	3.74	3.97	4.30	4.22
	2017	4.44	4.52	4.58	4.42	4.27	4.31	4.17	4.04	4.40	4.00	3.79	4.02	4.15	4.19
	2018	4.64	4.66	4.80	4.58	4.74	4.54	4.50	4.56	4.66	4.16	4.28	4.24	4.44	4.53
秋学期	2016	4.54	4.61	4.68	4.33	4.49	4.51	4.30	4.14	4.37	3.85	3.67	4.22	4.25	4.30
	2017	4.66	4.65	4.75	4.63	4.72	4.39	4.33	4.38	4.57	4.26	4.11	4.25	4.35	4.42
	2018	4.49	4.49	4.49	4.32	4.26	4.03	4.13	4.42	4.41	4.15	3.92	4.08	4.36	4.38
通年	2016	4.53	4.63	4.70	4.37	4.56	4.54	4.36	4.31	4.46	3.93	3.71	4.08	4.28	4.25
	2017	4.58	4.60	4.68	4.55	4.55	4.36	4.27	4.24	4.50	4.15	3.98	4.16	4.27	4.33
	2018	4.57	4.58	4.66	4.47	4.53	4.31	4.34	4.50	4.55	4.16	4.13	4.17	4.40	4.47

表3 2018年度授業評価ベーシック科目群結果(2016年、2017年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2016	4.59	4.57	4.71	4.40	4.56	4.38	4.23	4.45	4.61	4.21	4.14	4.18	4.45	4.60
	2017	4.64	4.80	4.87	4.66	4.75	4.73	4.33	4.44	4.74	4.09	4.09	4.33	4.58	4.56
	2018	4.77	4.86	4.83	4.56	4.72	4.63	4.30	4.52	4.61	4.34	4.38	4.54	4.58	4.69
秋学期	2016	4.54	4.58	4.61	4.27	4.40	4.28	4.42	4.41	4.37	3.99	3.86	4.05	4.29	4.30
	2017	4.66	4.68	4.74	4.57	4.58	4.52	4.31	4.41	4.55	4.19	3.99	4.48	4.49	4.53
	2018	4.55	4.67	4.72	4.41	4.35	4.30	4.01	4.01	4.39	4.36	4.27	4.27	4.34	4.39
通年	2016	4.56	4.58	4.65	4.32	4.47	4.32	4.34	4.43	4.47	4.09	3.98	4.11	4.36	4.43
	2017	4.65	4.72	4.78	4.60	4.64	4.59	4.32	4.42	4.61	4.16	4.02	4.43	4.52	4.54
	2018	4.65	4.76	4.77	4.48	4.52	4.45	4.14	4.25	4.49	4.35	4.32	4.39	4.45	4.53

表4 2018年度授業評価アドバンスト科目群結果(2016年、2017年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2016	4.46	4.52	4.56	4.33	4.47	4.45	4.37	4.39	4.52	4.23	4.16	4.37	4.41	4.43
	2017	4.59	4.67	4.69	4.43	4.64	4.60	4.59	4.42	4.61	4.24	4.20	4.45	4.55	4.45
	2018	4.65	4.77	4.78	4.41	4.70	4.58	4.48	4.55	4.67	4.36	4.45	4.58	4.61	4.74
秋学期	2016	4.46	4.50	4.58	4.21	4.44	4.33	4.51	4.29	4.40	4.14	4.05	4.18	4.35	4.28
	2017	4.67	4.67	4.78	4.51	4.47	4.59	4.71	4.58	4.60	4.38	4.36	4.58	4.63	4.58
	2018	4.57	4.72	4.70	4.33	4.56	4.56	4.48	4.47	4.55	4.34	4.31	4.42	4.55	4.50
通年	2016	4.46	4.51	4.57	4.28	4.46	4.39	4.43	4.35	4.47	4.19	4.11	4.28	4.38	4.36
	2017	4.62	4.67	4.72	4.45	4.58	4.60	4.63	4.47	4.60	4.28	4.25	4.49	4.57	4.49
	2018	4.61	4.75	4.74	4.37	4.63	4.57	4.48	4.52	4.61	4.35	4.38	4.50	4.58	4.62

また、表2から表4はコア、ベーシック、アドバンストの科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては前述した内容と同じ傾向が見受けられる。つまり、過去2年との比較をしてみると、2018年度は、2017年度よりも全体的に評価が向上している。

科目群間の比較では、コア科目に比べて、ベーシック科目、アドバンスト科目での高評価が目立つのも例年の傾向である。ただし、2017年度との比較に目を転じると、コア科目、また特にアドバンスト科目で多くの項目にわたって評価の向上が見られたのに対して、ベーシック科目では評価が低下した項目数が、向上した項目数を上回った。質問項目7「The amount of work assigned was reasonable.」では大きな評価の低下が見られ、ベーシック科目群全体での質問項目7への評価の低下を牽引したと言わざるを得ない。繰り返しになるが、質問項目の見直しを実施し、課題の正確な把握に基づいた対策の検討が必要になる。

個々の質問項目で見ると、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群全てで質問項目3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」が昨年同様最も高く、おのおの4.66点、4.77点、4.74点と4.6点を上回る高い評価であった。この結果からも、教員の知識レベルを学生が高く評価していることが伺われる。

一方、一番低い評価項目は、コア科目群では質問項目11「You made additional efforts

for the course such as searching related materials for course topics.」(4.13点)、ベーシック科目群では質問項目7「The amount of work assigned was reasonable.」(4.14点)、アドバンスト科目群では質問項目10「You prepared and reviewed proactively for the classes.」(4.35点)であった。質問項目11への評価は例年あまり高くはないが、上述のとおり、若干の改善が見られたため、ベーシック科目の質問項目7と、改善傾向が続いているアドバンスト科目の質問項目10への低評価がハイライトされる形になった。いものと思われる。

B. 教員による授業評価アンケート

授業評価アンケートの分析結果を受け、特に学生による高評価を獲得している科目を中心に、担当教員がどのような工夫を施し履修者の満足度の向上させているのか、という観点から、担当教員の自己評価結果を分析した。

これらの科目では、昨年同様に、学生の活発な授業参画を担保する様々な仕組みが共通して強調されていた。具体的には、学生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、長めのQ&A時間の設定、(教員・学生間ではなく)学生間の討議を仕掛ける、視聴覚教材の利用、実務家教員を中心とした教員自身の実務経験の積極的な共有、等である。

なお、学生による授業評価アンケートの評点が思わしくなかった科目について、高評価の科目と取り組み内容において大きな違いが見受けられなかった。

こうした状況は、現在の自己評価方法に大きな改善余地があることを示唆している。学生による授業評価の向上につながる施策が十分に把握できる質問項目や評価手法が採用されていない可能性が考えられるのである。現在の質問項目や評価方法はいわゆる定性的な指標に基づくアプローチである。これに対して、定量的な比較・分析・評価が可能な指標を採用したり、第三者による授業の閲覧・評価を採用するなど、教員による自己評価の中にも、客観性が担保できる要素を組み込み、授業の質・満足度の向上につながる授業方法の把握に資する評価方法の検討が必要である。

5. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、【設問 1】から【設問 9】が「教員の授業内容と方法」について、【設問 10】と【設問 11】が「学生自身の取組み」について、【設問 12】から【設問 14】が「授業の満足度」について問うものである。

各設問の平均値（少数点第二位四捨五入）および【設問 13】とその他の設問との相関係数（小数点第三位四捨五入）は、次のとおりである。

表 1 各設問の平均値と【設問 13】とその他の設問との相関係数

番号	設問文	2018 年度春学期		2018 年度秋学期	
		平均値	問 13 との相関係数	平均値	問 13 との相関係数
1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	4.6	0.62	4.7	0.63
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.7	0.70	4.7	0.70
3	教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	4.7	0.62	4.8	0.65
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	4.6	0.71	4.6	0.62
5	教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。	4.4	0.51	4.6	0.62
6	教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	4.4	0.68	4.5	0.72
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	4.5	0.60	4.4	0.51
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	4.5	0.71	4.5	0.64
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	4.6	0.54	4.6	0.59
10	この授業を受けるに当たって予習や復習を積極的に行いましたか。	4.3	0.47	4.4	0.58
11	この授業を受けるに当たって担当教員が示した参考文献に当たりましたか。	4.3	0.37	4.3	0.42
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	4.4	0.60	4.5	0.60
13	*この授業は全般的に満足いくものでしたか。	4.5		4.6	
14	この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか。	4.6	0.86	4.7	0.81

(2) 全体評価～専攻平均値～

表 2 は、すべての設問の評点を平均した専攻平均値（小数点第二位四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から 2018 年度にかけての専攻平均値の推移は、次の

とおりである。

表2 専攻平均値の推移

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
春学期	4.3	4.6	4.6	4.7	4.6	4.6
秋学期	4.4	4.6	4.7	4.7	4.6	4.6
	2017年度	2018年度				
春学期	4.6	4.5				
秋学期	4.5	4.6				

専攻平均値は、2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度から2011年度までは4.3から4.5という値を記録してきた。2012年度以降は、4.5以上を保ち続けている。このように近年は、総合的な評価としては高位での安定が図られているものと言ってよいであろう。しかし、2013年度秋学期～2014年度秋学期の4.7をピークに、ここ数年は4.5～4.6に止まっているのも確かであるので、更なる取り組みが必要だろう。

(3) 個別評価

①教員の授業内容と方法（【設問1】～【設問9】）

専攻全体に関しては、2018年度はこれまでと同程度の比較的高い水準を維持している。

【設問1】から【設問4】の評点は4.6以上と高いことから、担当科目についての資質を有する教員がシラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ている。【設問9】も高いが、これは各科目の受講者が少人数となり、より質問をしやすい環境が形成された可能性が考えられる。

表3 【設問1】から【設問9】の平均値

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9
(専攻全体)									
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.6	4.8
2014年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2015年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2016年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2016年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2017年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.7
2017年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.7
2018年度春学期	4.6	4.7	4.7	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6
2018年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6
(コア科目)									
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6
2012年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.5	4.6	4.6
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.5	4.3	4.5	4.4	4.7
2014年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.7	4.7
2015年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7
2015年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
2016年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
2016年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7
2017年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.5	4.4	4.4	4.4	4.6
2017年度秋学期	4.7	4.6	4.7	4.5	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5
2018年度春学期	4.6	4.6	4.7	4.6	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5
2018年度秋学期	4.6	4.6	4.7	4.6	4.4	4.3	4.3	4.4	4.5

表3 【設問1】から【設問9】の平均値 つづき

(ベーシック科目)									
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9
2014年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	5.0	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.9
2015年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.9	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
2016年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
2016年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2017年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.8	4.8	4.6	4.7	4.7	4.9
2017年度秋学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.6	4.7
2018年度春学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2018年度秋学期	4.8	4.8	4.8	4.7	4.6	4.6	4.5	4.6	4.7
(アドバンスト科目)									
2012年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.9
2012年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2013年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2014年度春学期	4.9	5.0	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.9
2014年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8
2015年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.7	4.6	4.9
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8
2016年度春学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.5	4.6	4.6	4.8
2016年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.8
2017年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.6	4.9	4.7	4.5	4.6	4.9
2017年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.8
2018年度春学期	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.5	4.4	4.5	4.7
2018年度秋学期	4.8	4.8	4.8	4.7	4.8	4.6	4.5	4.6	4.7

【設問5】から【設問8】については、上記設問に比して相対的には低い評点となっている。

授業の難易度及び受講人数の影響は、科目群ごとの結果から調べられる。科目群ごとの評価に関しては、全体的な傾向として、コア科目は低めに、そしてアドバンスト科目は高めの結果が出ている。特に、コア科目の【設問5】から【設問8】は4.3～4.4と相対的にかなり低い結果となっている。

コア科目は導入教育に該当する科目が多く、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、会計士・税理士をめざすプログラムの授業で取り上げる内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂等によって増加している傾向にあらう。導入教育段階にあたる

コア科目において、学生が授業内容および課題の取組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、コア科目は1年生が主に履修しているが、1年生の入学時点での会計知識のレベルにばらつきがあることが影響している。会計に関する知識のある学生からすれば、ただの復習程度の内容に止まる一方で、知識のあまりない学生にとっては難しすぎるとして不満が出やすい構造である。しかも、コア科目は履修者数が比較的多いため、個別の対応が難しいことも原因の一つと思われる。

このように、コア科目に関しては、学生の会計知識レベルのばらつきに対して、各教員は何らかの対応をする必要があるだろう。会計大学院として求められている水準を考えると、コア科目の授業水準を下げることに慎重であるべきだが、より分かりやすい資料の提供や説明を工夫するなどの取組みは必要と思われる。

② 学生自身の取組み（【設問 10】・【設問 11】）

「学生自身の取組み」を問う【設問 10】と【設問 11】の評価は、例年、他の設問に比して常に低くなっている。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものとも言えよう。特に、【設問 11】の評点はほぼ毎回、全ての設問の中で最も低いものとなっている。しかし、2018年度は、例年より若干ながら改善している。これは、学生自ら文献を探すなどの努力を促す取組みが実を結び始めたのかもしれない。この点は、本学だけでなく、専門職大学院の教育全般にとっても課題となっているテーマであることから、今後とも積極的に取り組みたい点である。

【設問 10】に関しては、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討して実践することが考えられる。特に、授業で与える課題の量を予習・復習との関係も踏まえて設定するなど、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することが必要である。【設問 11】に関しては、【設問 4】とも関係するが、教科書・配付資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をする取組みを今後も維持することが必要である。

表4 【設問10】から【設問14】の平均値

	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
(専攻全体)					
2012年度春学期	4.1	4.0	4.3	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度春学期	4.2	3.9	4.3	4.6	4.6
2013年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.7
2014年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.7	4.8
2015年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.7	4.7
2016年度春学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2016年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2017年度春学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.7
2017年度秋学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.6
2018年度春学期	4.3	4.3	4.4	4.5	4.6
2018年度秋学期	4.4	4.3	4.5	4.6	4.7
(コア科目)					
2012年度春学期	4.1	3.8	4.2	4.5	4.6
2012年度秋学期	4.1	3.9	4.2	4.5	4.6
2013年度春学期	4.2	3.9	4.2	4.5	4.6
2013年度秋学期	4.4	4.1	4.3	4.6	4.7
2014年度春学期	4.3	3.9	4.3	4.7	4.8
2014年度秋学期	4.1	4.0	4.4	4.7	4.7
2015年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.7	4.7
2015年度秋学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
2016年度春学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
2016年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.5	4.6
2017年度春学期	4.2	4.0	4.3	4.6	4.7
2017年度秋学期	4.3	4.0	4.2	4.4	4.5
2018年度春学期	4.3	4.2	4.3	4.5	4.5
2018年度秋学期	4.3	4.1	4.4	4.5	4.5

表4 【設問10】から【設問14】の平均値 つづき

(ベーシック科目)					
2012年度春学期	4.2	4.1	4.3	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.3	4.0	4.5	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.5	4.3	4.5	4.8	4.8
2014年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.4	4.1	4.6	4.8	4.9
2015年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.8	4.7
2016年度春学期	4.5	4.4	4.5	4.7	4.8
2016年度秋学期	4.3	4.2	4.4	4.7	4.7
2017年度春学期	4.4	4.3	4.5	4.8	4.8
2017年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.6	4.7
2018年度春学期	4.4	4.4	4.5	4.6	4.7
2018年度秋学期	4.4	4.3	4.6	4.7	4.7
(アドバンスト科目)					
2012年度春学期	4.3	4.3	4.6	4.8	4.8
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.8
2014年度春学期	4.3	4.2	4.6	4.9	4.9
2014年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.9
2015年度春学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8
2016年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.6	4.6
2016年度秋学期	4.5	4.4	4.6	4.7	4.7
2017年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.7	4.7
2017年度秋学期	4.1	4.0	4.5	4.7	4.7
2018年度春学期	4.5	4.4	4.4	4.5	4.6
2018年度秋学期	4.4	4.4	4.6	4.7	4.7

③ 授業の満足度（【設問12】～【設問14】）

【設問12】から【設問14】の評価は、授業に対する評価の結論的指標となるものである。専攻全体で見ると、【設問12】～【設問14】の2018年度の評点は、これまでと同様の値を保っている。

科目群で見ると、分析能力や批判力が涵養されたかを問う【設問12】について、コア科目の評点がベーシック科目とアドバンスト科目に比して低いものとなっている。上述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎知識を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあろうかと思われるが、授業方法等に工夫を図れないか担当教員に検討を期

待したいところである。

【設問 13】と【設問 14】に関しても、コア科目の評点は他の科目と比べて若干低めの評点が出ている。授業内容の改善を図るなら、まずはコア科目の内容から見直すことが効果的と思われる。

以上より、特にコア科目に関して、適切な教科書の指定や教材の開発・準備のもと、授業内容の水準、量（予習・復習、学生自身の取組みを促す課題などを含む）、そして授業時間とのバランスを図り、個々の学生の内容理解の水準に応じたフォローを行いながら、より分析能力・批判力を涵養する授業を実践していくことの重要性が引き続き指摘できよう。

B. 教員による担当科目自己評価

教員による担当科目自己評価表は、【設問 1】この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、【設問 2】この科目において、①実施してよかった点と②改善・工夫をした方がよい点は何ですか、【設問 3】この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思えますか、という 3つの設問について、担当教員が自由記述形式で回答するものである。

以下では、各設問に対する回答の傾向を把握するために回答内容を分類し、これに基づいて分析を行っている。ただし、次のような制約、限界がある点に留意されたい。まず、分類にあたっては回答の文言よりもその趣旨に基づいているが、各設問の回答は自由記述形式であるため、その判断が主観的なものとならざるを得ない部分がある。また、全体的な傾向を明らかにするため、回答が 1 つもしくは 2 つの場合には、表には含めていない。なお、【設問 1】と【設問 2】は、複数項目の回答が可能となっている。

(1) 【設問 1】に対する回答内容とその分析

【設問 1】（この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか）に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

表5 【設問1】に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
基礎的・体系的知識の修得	69%	47%	12%
事例・実務を踏まえた授業	15%	11%	18%
一定水準の知識・能力の修得	5%	31%	45%
計算力・論述力の修得	—	19%	3%
担当科目の重要トピックに関する詳細な解説	23%	14%	15%
グループワーク・ディスカッションなど双方向な授業の実践	3%	6%	—
実践的な能力の修得	—	—	24%
丁寧な解説	8%	8%	6%
学生による自主的・積極的な学習実践の促進	5%	8%	15%

コア、ベーシック、アドバンストに共通して比較的回答が多かった項目は「担当科目の重要トピックに関する詳細な解説」と「事例・実務を踏まえた授業」であった。特に、「事例・実務を踏まえた授業」に関しては、前年度までは、コア科目ではそこまで回答数が多くなく、ベーシック、アドバンストと高度な内容になるにつれて回答数が増加する傾向が見られたが、今年度はコア科目の段階から実例や実務の紹介をする授業が増えているようである。

コア科目では、「基礎的・体系的知識の修得」に最も力を入れているとの回答が突出して多く、おおよそ全コア科目授業の3分の2の授業がこれを回答している。これは、コア科目の性格上当然と思われる。

ベーシック科目においても「基礎的・体系的知識の修得」との回答が多いが、「一定水準の知識・能力の修得」との回答も多い。ベーシック科目ということで、より高度な理論を教えているようである。

アドバンスト科目では、「一定水準の知識・能力の修得」と「実践的な能力の修得」の回答が多い。アドバンスト科目なので、実践的で専門性の高い授業が多くなっていることがみとれる。

また、アドバンスト科目の多くの授業は、単純な講義形式ではなく、演習発表やグループワーク、受講生同士のディスカッションを取り入れるなどし、双方向の授業を実施しているのも特徴である。「グループワーク・ディスカッションなど双方向な授業の実践」との回答がアドバンストではゼロとなっているが、これは、アドバンスト科目では演習形式・グループワーク形式が一般的になってしまっているため、改めて【設問1】で回答することでもな

かったことが理由と思われる（このことは、【設問2】の回答で「学生による課題報告や発言、ディスカッション」や「双方向な授業の実践」が非常に多いことから分かる）。

(2) 【設問2】に対する回答内容とその分析

【設問2】は、①担当科目において実施してよかった点と、②担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する自己評価を回答することとなっている。

① 担当科目において実施してよかった点

担当科目において実施してよかった点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

表6 担当科目において実施してよかった点に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンス科目
小テスト・中間テストの実施	31%	33%	9%
宿題・レポートなどの課題	21%	17%	3%
要点を得たもしくは詳細なレジュメ・配布資料の作成	26%	8%	6%
基礎知識の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導	10%	14%	3%
事例・実務に則した授業	13%	25%	33%
理論解説、実務解説、演習などのバランスの工夫	3%	22%	3%
テスト・課題に対するコメントのフィードバック	8%	—	6%
学生による課題報告や発言、ディスカッション	5%	6%	39%
双方向な授業の実践	10%	14%	36%
グループワーク、グループディスカッション	—	8%	6%
パワーポイント等のICT機器の使用	10%	—	6%

コア科目では、「小テスト・中間テストの実施」が最も多く、これは、【設問1】を踏まえた基礎的・体系的知識の定着を図るために実施されているものと考えられる。また、これに関連して、「宿題・レポートなどの課題」や「要点を得たもしくは詳細なレジュメ・配布資料の作成」との回答が次に多かった。

ベーシック科目では、コア科目と同様に、知識の定着を図るための取組みに加えて、「事例・実務に則した授業」と「理論解説、実務解説、演習などのバランスの工夫」の回答が増えている。これはベーシック科目では、理論と実務の両方が重視される科目が多いためであろう。

アドバンスト科目においても、ベーシック科目と同様に、「事例・実務に則した授業」の回答が多いが、それだけにとどまらず、「学生による課題報告や発言、ディスカッション」や「双方向な講義の実践」も多い。これは、アドバンスト科目では、一般的な講義形式ではなく、演習形式の授業が多いことを意味している。ただ、表には掲載していないが、アドバンスト科目では、「受講生が1～2人しかいないためグループワークやディスカッションが思うようにいかなかった」との趣旨の回答がいくつかあった。アカウンティングスクールに入学する学生数が低迷する中、特にアドバンスト科目ではその対応を迫られているといえよう。

② 担当科目について改善・工夫をした方がよい点

担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

表7 改善・工夫をした方がよい点に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善	15%	11%	—
講義（解説）・演習などの時間配分	23%	11%	—
学生の能力・予備知識・理解度の差への対応	15%	8%	15%
双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み	5%	14%	21%
学生による自発的学習の促進	5%	8%	12%
授業で扱うトピックの選定、及び質と量のバランス	10%	28%	39%
演習問題や課題の内容の改善	5%	6%	3%
小テストや課題などの実施、または量の改善	—	8%	3%
特になし	21%	8%	6%

コア科目では、「レジュメ・テキスト・配付資料等の教材の改善」、「講義（解説）・演習などの時間配分」、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」を挙げた回答が多かった。コア科目では、その分野の初学者が受講することも多いため、受講する学生の予備知識に差が生じやすい。そのため、様々なレベルの学生が混在する中で、どのように授業を行うかに苦労しているようである。

ベーシック科目では、「授業で扱うトピックの選定、及び質と量のバランス」が多かった。

アドバンスト科目では、ベーシック科目と同様に「授業で扱うトピックの選定、及び質と

量のバランス」を挙げた回答が多かった。また、「双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み」も多かった。

一般的傾向として、コア科目からアドバンスト科目に移行するにつれて「双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み」や「授業で扱うトピックの選定、及び質と量のバランス」の回答が多くなっている。これは、コア科目からアドバンスト科目に移行するにつれて演習形式の授業が多くなることや、その分野のトピックを広く薄く授業するコア科目に対して、アドバンスト科目では狭く深く授業する必要があることと合致しているが、この結果は、具体的な演習の実施方法について、様々な模索が行われていることを示している。

(3) 【設問3】に対する回答内容とその分析

【設問3】(この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか)に対する回答内容の概要は、以下の表のとおりである。

概ね、一定程度は達成できた、との回答が多かった。これは、教員の教え方というよりは、学生が積極的に勉強をした結果である。

表8 【設問3】に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
達成できた・ほぼ達成できた	97%	94%	97%
半分程度達成できた・あまり達成できなかった	3%	6%	3%

(4) 教員による担当科目自己評価の特徴と今後への示唆

以上を踏まえ、アカウンティングスクールの教員による担当科目自己評価にみられる講義への取組みの特徴と今後の改善・工夫への取組みの方向性とさらなる課題として、次の諸点が挙げられる。

コア科目に関しては、特に基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれており、知識の定着を図るべく、小テスト・中間テストの実施や、宿題・レポートなどの課題の実施とともに、独自のレジュメ・配布資料を作成するといった取組みが行われている。ベーシック科目では、理論と実務(実践)例が両方とも重視される科目が多い。そのため、その分野の基礎的・体系的な知識の修得に力を入れている科目もあれば、比較的高度な水準の知識・能力の修得に力を入れている科目もある。

このように、どこに重点を置くかが、教員や科目によって多少異なっているが、一般的に、小テスト・中間テストの実施、宿題・レポートの実施、理論解説・実務解説・演習などのバランスの工夫、実務例に則した講義や双方向性のある講義などは、実施してよかったとの回答が多い。今後も、科目ごとに様々な取組みが行われることに期待したい。

アドバンスト科目では、基礎的・体系的な知識の習得はほとんど目標とされていない。そのため、講義内容の定着を促すために実施されることが多い小テストなども、ほとんど実施されていない。専門性を高めるために、理論中心の科目であれば、高度な知識・能力の修得を目指して重要トピックの詳細な解説が行われ、また、実務例中心の科目であれば、実践的な能力の修得を目指して事例・実務を踏まえた授業が行われている。いずれにせよ、ほとんどの場合、授業は演習・グループワーク形式で行われており、学生による発表やディスカッションなど、教員と学生との間にとどまらず、学生間のコミュニケーションも重視されている。

ここで視点を変えて、学生による授業評価アンケートを見てみると、【設問10】(この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか)と【設問11】(この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか)の値が、他の設問と比べて低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着が重視されており、小テストなどを通じて、復習を促す取組みは盛んに実施されている。今後は、予習を促し、さらには自発的な学習を促す取組みが期待される。アドバンスト科目では、課題の報告(発

表) や双方向への取組みによってこの点を改善することが図られているが、より積極的に、自発的な学習を促す取組みが求められる。

【設問 11】は、2018 年度において多少の改善が見られるので、教科書・配付資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をするなどの取組みを今後も維持することが必要であると考えられる。

最後に、近年は、コア科目、ベーシック科目、及びアドバンスト科目のすべてにおいて、学生の予備知識・理解度の差が大きいことへの対応が必要となっていることを指摘したい。この問題には2つの側面がある。1つは、理論に関する解説において、理論を理解するための予備知識・前提知識が必ずしも共有されていない、というものである。この問題に関しては、学生に、より入門的な授業から順に履修するよう、シラバスや履修ガイダンスなどで案内を徹底する必要がある。

もう1つは、実務に関する解説において、実務経験のある社会人学生と、実務経験の無い学生とで、実務で使われる用語などについての予備知識・前提知識が必ずしも共有されていない、というものである。アカウンティングスクールという性質上、実務例を紹介する授業を、実務を経験していない学生が履修するのは必然であるため、各授業の担当教員が工夫してフォローすることが求められる。

6. 今後の課題

A. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

今年度の授業アンケートでは、コア科目、ベーシック科目、アドバンス科目のほぼ全ての設問において、平均としては前年度及び過去平均を上回る結果を上回っているものの、個別の科目を見るとバラツキがあり、スコアの低い科目個別の改善を目指す必要があるであろう。特に満足度に関する質問群である設問 12, 13, 14 について、4.0 を下回る授業数がそれぞれ 13, 6, 3 件あり、個別の問題点を十分に吟味し来年度の改善を図る必要がある。

また設問 12 は「分析能力が身についたか」を問う設問であり、他の質問に比べて 4.0 を下回っている授業数が多い。分析能力には様々なものがあり、数量的な把握だけが分析能力では無いが、近年のビッグデータ/AI 時代において、MBA 取得者の数理的素養の向上に対する期待は高く、定性的/記述的な色彩の強い科目であっても、数量的な手法を部分的に導入するなどの工夫が必要となるであろう。

数量的な事象の把握のためには基礎知識と相応の技術的な訓練が求められる。本コースの入学試験とカリキュラムでは、数量的な分析能力の涵養には依然として不十分な点があり、検討が必要であろう。

B. 国際経営コース

国際経営コースにおける今後の課題としては、「学生数の増加と授業に対する満足度との両立」、および「質問項目 7（特にベーシック科目群）に対する評価向上策の検討」の二点を挙げる。

第一に「学生数の増加と授業に対する満足度との両立」である。募集人員の充足率の向上は国際経営コース開設以来の課題であり、今後しばらくも重要な課題であり続ける可能性が否定できない。入学者数の増加が継続的な課題であり続けるかぎり、それに伴って生じると考えられる学生の授業に対する満足度の低下への対応は、今後、国際経営コースが正面から対処する必要のある非常に重要なチャレンジである。まずは、こうした問題意識をデータに基づいて共有することが、このチャレンジへの対処の第一歩であろう。その上で、比較的、大きなクラス規模と高い満足度を両立している授業の見学を制度化するといった組織的な取り組みの検討も必要になるであろう。

さらに第二の「質問項目 7（特にベーシック科目群）に対する評価向上策の検討」であるが、課題や宿題の量（あるいは質）にどのような理由で「reasonable」ではないのか、を明らかにしないかぎり対策の検討は不可能である。したがって、質問項目 7 に関する評価が思わしくない科目の履修者への聞き取り調査が喫緊のアクションとなるであろう。これが難しい場合は、質問項目 7 の内容を見直し、より明確に課題が把握できる聞き方を検討する必

要がある。

C. 会計専門職専攻

会計専門職専攻では、2018年度において、【設問11】「この授業を受けるに当たって担当教員が示した参考文献に当たりましたか」の項目で若干の改善傾向がみられた。とはいえまだ十分な水準に達していないため、次年度以降も、教科書・配付資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をする取り組みを維持し、更なる改善を図ることが必要であると考えられる。

コア科目に関しては、教員には、学生の会計知識レベルのばらつきに対して、何らかの対応をする必要がある。会計大学院として求められている水準を考えると、コア科目の授業水準を下げることは慎重であるべきだが、より分かりやすい資料や説明を工夫するなどの取り組みは必要と思われる。また学生に、より入門的な授業から順に履修するよう、シラバスや履修ガイダンスなどで案内を徹底する必要があるだろう。

アドバンスト科目に関しては、授業で取り扱うトピックの選定が重要である。アドバンスト科目で扱うトピックは、最近の研究動向だったり、実務の最新トレンドだったり、常にup-to-dateが求められている。また、アドバンスト科目では受講人数が数人程度の少人数授業が多いため、学生の能力や理解度に合わせて内容を適宜調整することが大事である。例えば、実務経験のある社会人学生と、実務経験の無い学生とで、実務で使われる用語などについての予備知識・前提知識が必ずしも共有されていないことはよくあることである。アカウンティングスクールという性質上、実務例を紹介する授業を、実務を経験していない学生が履修するのは必然であるため、このような場合には、各授業の担当教員が工夫してフォローすることが求められる。

D. 総評

本報告書において、経営戦略専攻の企業経営戦略コースと国際経営コース、会計専門職専攻の3つがそれぞれの問題点を指摘している。全体としてPDCAサイクルが緻密に確立するところまでには工夫が必要であるが次の2点はすぐにでも改善が望まれる。まず、共通している問題である、「学生の質のばらつき」にどの様に対応するかということである。企業経営戦略コースでは、「統計学」の必修化に対して学生インタビューにおいて問題が提起されているが、内容的なものなのか技術的な問題なのかを検討する必要がある。

専門職大学院ではますますビジネスの現場における高度な実践力を支える知識、理論、技能が求められている。技能習得の段階的な連続性を確保するためには一定の時間が必要で

あり、eラーニングなどの導入も考える余地があるだろう。

国際経営コースでは、学生からディスカッションを踏まえた講義が望まれている。初学者の能力を考えると反転学習などの仕組みを作ることも重要であろう。

会計専門職専攻では、学生の予備知識のばらつきが指摘されており、この問題は学部新卒者、社会人、留学生など多様な学生を入学させている以上は避けて通れないであろう。報告書では詳細な検討がされており、研究科全体の問題として対応策を立てることが必要である。

最後に、本報告書の元になっている各データの活用について2019年度に検討をする予定である。学生へのインタビューの活用も含めて2019年度の報告書の課題としたい。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
内部質保証委員会

コンビーナー 山本 昭二